

論文要旨説明書

報告論文のタイトル：違法ダウンロード刑事罰化に関する社会科学的検討

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：高津 宏明

所属：

共著者 1 氏名：

所属：

共著者 2 氏名：

所属：

論文要旨（800 字から 1200 字、英文の場合は 300 から 450 語）

本研究は、平成 24 年著作権法改正にて実現した「違法ダウンロード刑事罰化」が社会に対して与える影響と、それをもたらすメカニズムについて論じたものである。

まず、先行研究から、人々の法遵守行動を抑止モデルと規範モデルの 2 種類に整理した。抑止モデルは、人々の法遵守行動は公的サンクションおよびシグナリングの利益という法遵守要因によってもたらされるというものであり、法と経済学的なモデルである。また規範モデルは、人々の法遵守行動は倫理観および正当性という法遵守要因によってもたらされるというものであり、法社会学的なモデルである。

この整理をもとに、著作権者と著作物利用者の行動を展開型非協力ゲームとして構成・後戻り推論によって分析し、複数の仮説を設定した。これらの仮説群は、人々の違法ダウンロード行動を①抑止モデルによって説明する仮説、②規範モデルによって説明する仮説、③抑止モデルと規範モデルを統合して説明する仮説、の 3 つに大別される。

これらの仮説を、東京大学の社会科学系の学生を対象とした質問紙調査と、広く一般の人々を対象としたインターネット調査の 2 つの社会調査によって検証した。

検証によって、インターネット調査において上記②および③の一部が支持され、一般的に人々の違法ダウンロード行為に直接的な影響を与えているのは規範モデルにおける法遵守要因のみであることが分かった。また、一般的に違法ダウンロード行為を悪い行いだとみなす社会規範が形成されているが、刑事罰化それ自体が人々の行動に影響を与えているとはいえないことも分かった。ただし、学生調査では上記①が支持されており、一般の人々とは異なる結果が得られていることには注意を要する。

本研究の結果から、人々の社会的評価を適切に反映した法制定の必要性が示唆される。違法ダウンロード刑事罰化についても、今後の運用や司法判断を通じて、社会の実態や人々の意識と乖離しない法となることが望まれる。